

むてん
無添 くら寿司 

天然魚プロジェクトから学んだこと

2018年3月13日(火)
(株)くらコーポレーション

くら寿司「天然魚プロジェクト」の目的と手段

【目的】

日本の漁業の活性化

新鮮で安くて美味しい天然魚の提供

【手段】

2011年 ご当地フェア

2015年 鷹巣定置網（福井県）との年間契約

2016年 天然魚専用加工センター（貝塚センター）
の稼働

2017年 魚島（愛媛県）との年間契約

2018年 集荷産地拡大（西日本を中心に40か所）

「ご当地フェア」から学んだこと

- ・漁業者様からの期待や要望
- ・安定供給の難しさ
- ・鮮度管理の難しさ



問題を解決するために、
年間契約（一船買い）の実施
産地との直接取引
自社天然魚専用加工センターの建設

年間契約（一船買い）の実施 2015年 鷹巣定置網（福井県）との年間契約



- 昔から続く、定置網漁を行う漁港であり、近海物の「タイ」「ハマチ」などが獲れる。
- 船で約30分の場所に、全長1 kmを越える巨大な仕掛け網を設置。
- 毎年4月から11月頃まで操業。
- 昔は年間250 t 以上の水揚げがあったが、近年は200 t 以下まで落ち込んでいる。



年間契約（一船買い）の実施 2017年 魚島（愛媛県）との年間契約



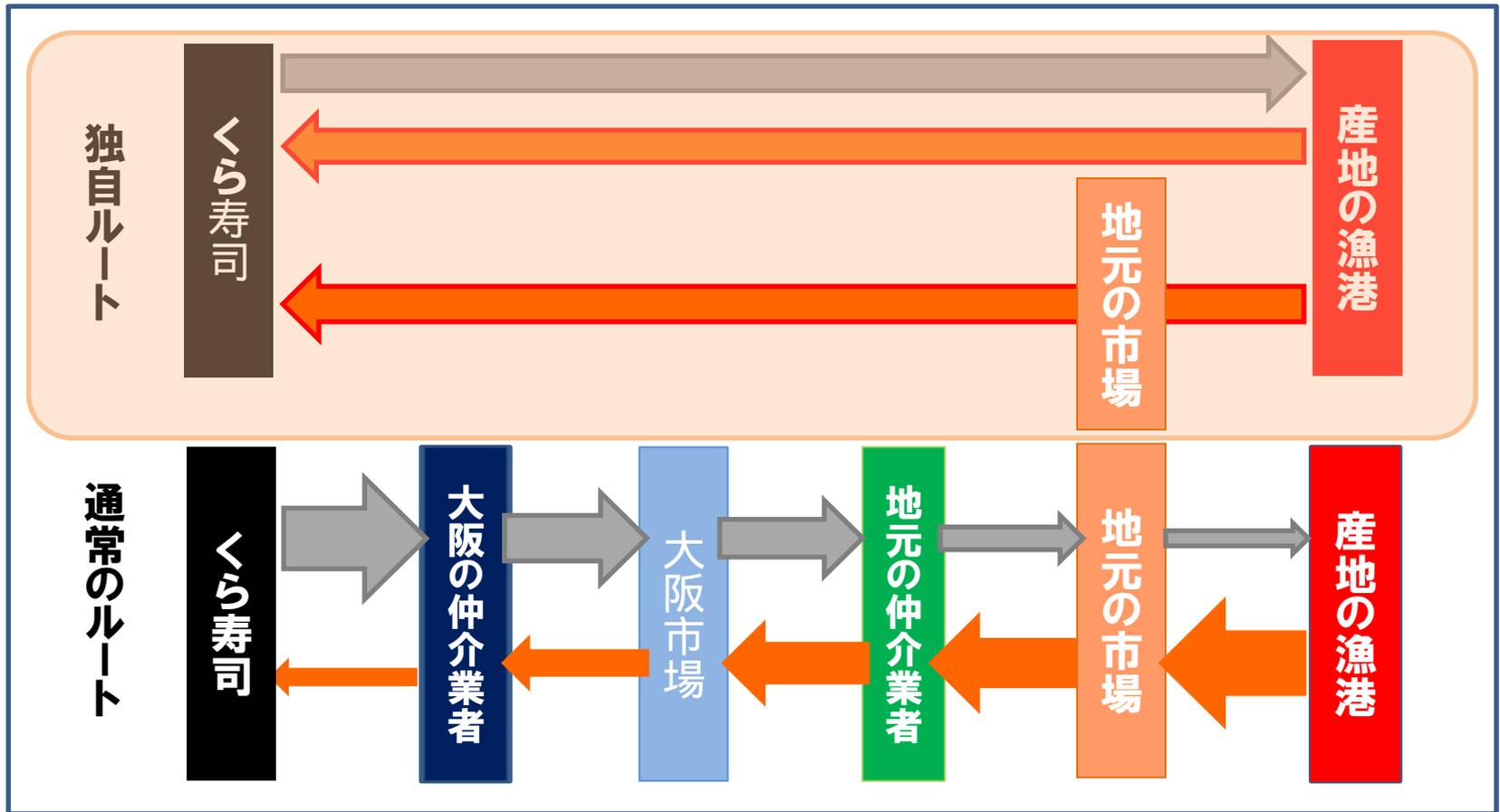
年間契約（一船買い）の実施 魚島（愛媛県）の漁師さんの収入3倍に

愛媛新聞 17年5月4日 掲載記事より

「ジモトのココロ」17年10月25日 掲載記事より

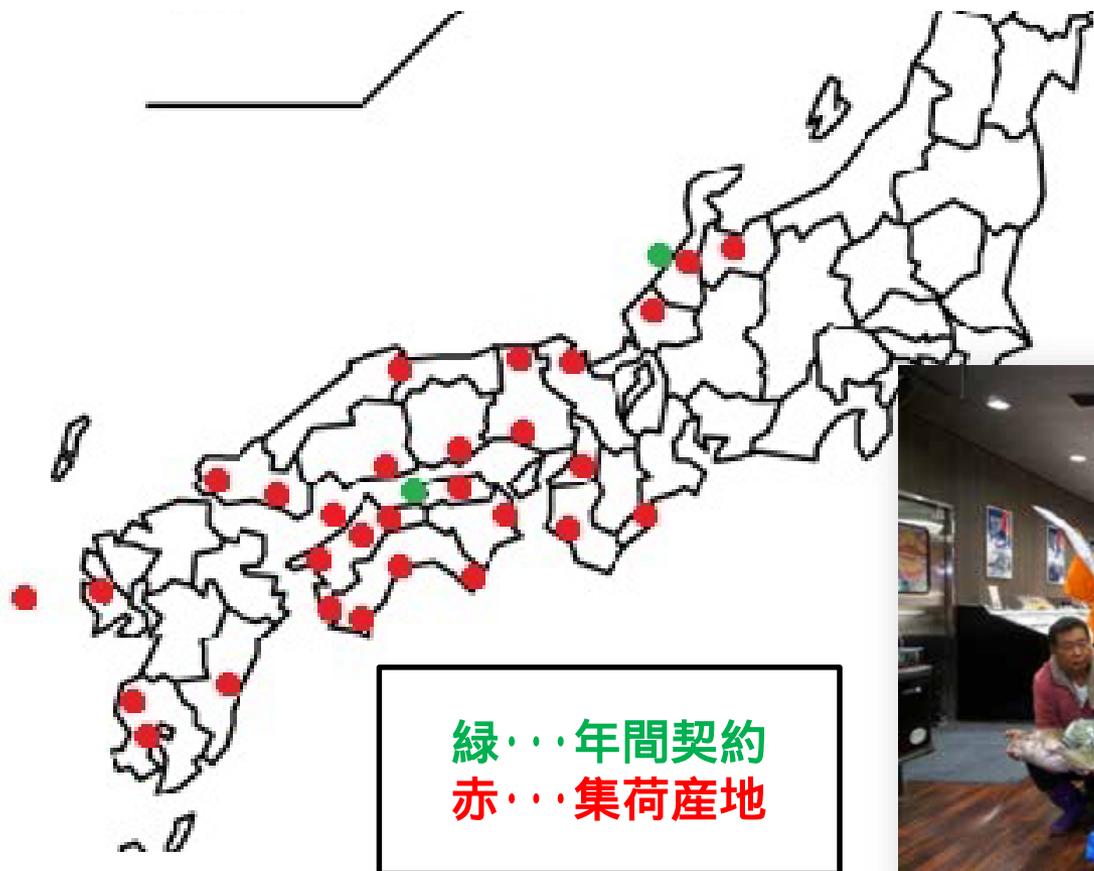


産地との直接取引



「水産流通」において“産地から消費者”まで、
情報共有から一元管理を実行

産地との直接取引



現在は、西日本中心に40の漁港から直接買い付け拡大

自社天然魚専用加工センターの建設

2016年 天然魚専用加工センター（貝塚センター）の稼働



自社天然魚専用加工センターの建設

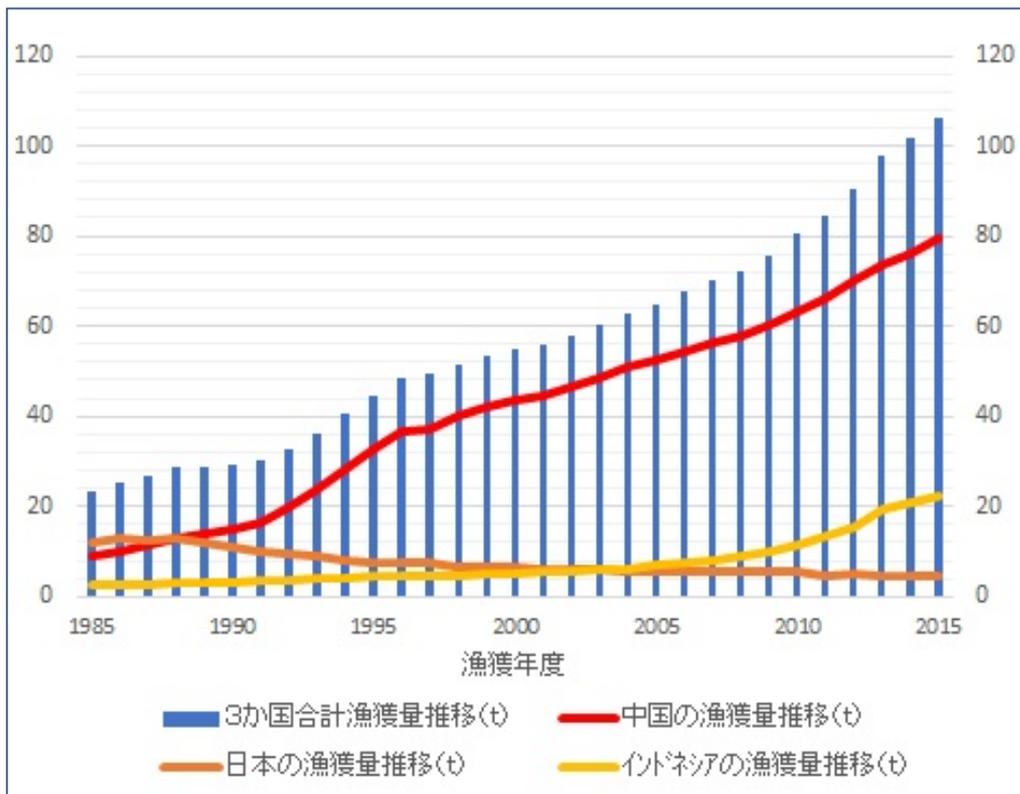
年間約1,000tの天然魚の集荷、加工、販売を実現。
ハマチ、タイはもちろん、シイラやボラなどの未利用魚も
大人気となっている



世界の漁獲量ランキング推移

資料 日・中・インドネシア 漁獲量推移 (単位:100万t)

資料 国別漁獲量ランキング(2015年 単位t)



順位	国名	漁獲量 (t)
1	中国	79,389,445
2	インドネシア	22,214,661
3	インド	10,100,057
4	ベトナム	6,207,514
5	米国	5,471,416
6	ペルー	4,929,850
7	日本	4,656,708
8	ロシア	4,617,068
9	フィリピン	4,503,102
10	ノルウェー	3,821,979

天然魚プロジェクトを通じて見えた課題

最新技術を活かすための体系づくり

- 規模や用途に合った設備(船、網、水揚げ場設備)
- 蓄養のための設備、場所、規制
- 各地水揚げ状況のリアルタイムな可視化(資源管理面、仕入れ面)

売り先と直結させるための体系づくり

- 商流の簡素化
- 物流、集荷の集約化

売り先、売れる商品、ブランド開発

- 売り先・・・学校給食、外食チェーン、量販店
- 売れる商品・・・(業務用)フィレ加工、高鮮度凍結、ミンチ加工
神経締め、活け締め
(家庭用)冷凍食品、お惣菜(スリーミーコロッケ)
- ブランド開発・・・Japanブランドの構築と発信

課題の実現のために

政治主導でのリセットと再構築に期待

規制改革

構造改革

モデルプランの支援と拡大